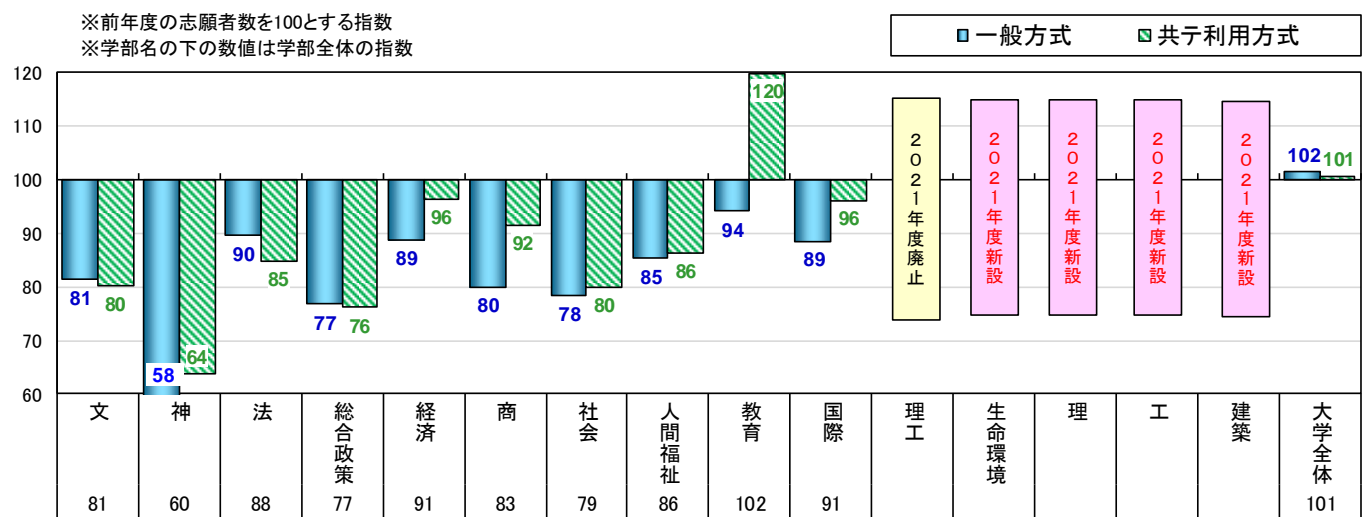


2021年度入試状況分析【私立大】

関西学院大：大学全体では4年ぶりに増加

一般：+335人 共テ：+73人



入試変更点

学部改組：理工(化学、物理、生命科学、情報科学、数理学、人間システム工、先進エネルギーナノ工、環境・応用化学、生命医化学)
→理(数理学、物理・宇宙、化学)、工(物質工、電気電子応用工、情報工、知能・機械工)
生命環境(生物科学、生命医科学、環境応用化学)、建築(建築)

選抜方法：廃止…総合政策、経済、教育<学部個別理系>

募集人員：総合政策<一般・全学>…95人→90人、<一般・学部個別>…90人→85人、
<一般・独自>…80人→50人、<共テ・1月>…50人→45人
社会(社会)<共テ・1月>…85人→70人
人間福祉(社会福祉)<一般・全学>…24人→20人、<一般・学部個別>…24人→20人
<一般・独自>…19人→15人、<共テ・1月>…20人→17人
(社会起業)<一般・全学>…12人→19人、<一般・学部個別>…12人→19人

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数、なお共通テスト利用方式はセンター試験利用方式との比較

大学全体では408人(101)の微増だが学部改組の効果により4年ぶりに増加。方式別でも、一般方式は335人(102)、共通テスト利用方式は73人(101)といずれも微増で、4年ぶりに増加。学部別では、学部改組があった4学部は改組前の理工と比較すると、募集方式と募集人員の増加により(177)の大幅増加。一方で、既存の10学部のみでは(85)の大幅減少。

<一般方式>

- 文(81)は、前年度3年ぶりに増加だが、再度減少に転じた。学科別では、3学科全てが減少し、(総合心理科学)(70)、(文学言語)(84)は大幅減少。
- 法(90)は、3年連続減少。学科別では、(政治)(81)は3年連続大幅減少、(法律)(92)は2年連続減少。
- 総合政策(77)は、大幅減少で2年連続減少。廃止方式の<学部個別理系>を除いても(82)の大幅減少。
- 経済(89)は、3年連続減少。方式別では、<学部文系>(79)、<英数>(85)は大幅減少。
- 商(80)は、前年度やや増加の反動で大幅減少。3方式全てが減少。
- 社会(78)は、大幅減少で4年連続減少。方式別では、<英数型>(111)のみ増加。志願倍率も8.3倍→6.5倍にダウン。
- 人間福祉(85)は、3年連続大幅減少。3学科全てが3年連続減少し、特に(社会起業)(77)は3年連続大幅減少。
- 教育(94)は、やや減少で4年連続減少。コース別では、(教育/幼児教育)(108)は増加だが、他の2コースは減少。
- 国際(89)は、系統への低い人気も影響し、2年ぶりに減少。志願者数は1,000人を下回った。
- 理工から改組した生命環境、理、工、建築のそれぞれの志願倍率は11.7倍、17.3倍、15.7倍、16.8倍と、理の競争が最も激しかった。

<共通テスト利用方式>

- 文(80)は、大幅減少で2年連続減少。学科別では、3学科全てが減少、(文学言語)(72)、(総合心理科学)(81)は大幅減少。
- 法(85)は、大幅減少で3年連続減少。学科別では、2学科とも減少し、特に(政治)(75)は3年連続大幅減少。
- 総合政策(76)は、大幅減少で3年連続減少。方式別では、<共テ・数学併用型>(52)のほぼ半減が目立った。
- 経済(96)は、やや減少で4年連続減少。
- 商(96)は、やや減少で3年連続減少。志願者数は1,000人を下回った。
- 社会(80)は、大幅減少で4年連続減少。志願倍率は募集人員減少により11.0倍→10.3倍にわずかにダウン。
- 人間福祉(86)は、3年連続減少。学科別では、3学科全てが減少し、(人間科学)(78)は大幅減少、(社会起業)(82)は3年連続大幅減少。
- 教育(120)は、前年度大幅減少の反動で大幅増加。コース別では、3コース全てが増加し、特に(教育/教育科学)(140)の40%の増加が目立った。
- 理工から改組した生命環境、理、工、建築のそれぞれの志願倍率は67.3倍、59.5倍、62.4倍、60.9倍と、生命環境の競争が最も激しかった。